

## Ⅱ 農業・農村の振興方向

### 1 基本課題についての方向

近年の高温・干ばつ・集中豪雨等の異常気象、食の安全の確保等様々な課題に対応するため、高温対策、省エネルギー化技術、環境制御技術、県育成品種等の導入を推進するとともに、農業生産工程管理手法（GAP）の導入・活用の推進、鳥獣害対策の取り組みにより日高ブランドの確立をめざします。

また、魅力ある農業、農村を支える人づくりでは、認定農業者への経営改善支援、新規学卒就農者からU・I・Jターン就農者や女性農業者まで多様な担い手の育成に取り組めます。

さらに、地域で培ってきた食文化や郷土料理を次世代を担う子どもや消費者に伝える食育活動を実践するとともに、起業を目指す農産物加工グループを支援します。

#### （1）担い手の育成確保及び農地集積

新規就農者や認定農業者については、農業の担い手として収益性を高めることを基本に経営改善に対する支援を行います。

また、市町、農業委員会、農協、農地中間管理機構等の関係機関と連携を図り、農地集積や農作業受託組織の活動を支援します。

#### （2）和歌山ブランドの推進

梅、柑橘、ミニトマト、エンドウ類、スターチス等の地域特産品のブランドの推進のため、高品質安定生産の取り組みに対して支援します。

#### （3）ICT等の革新的技術活用や環境への負荷低減、気候変動に対応する農業の推進

施設栽培の環境制御技術の導入推進や環境と調和した持続可能な農業生産に向けた取組に対して支援します。また、試験場・研究所の関係機関と連携し、開発された気候変動に適応した栽培技術や新品種の普及を図ります。

#### （4）GAPの導入推進

GAPの意義の理解と制度に対する認知度を高め、国際的に通用するGAP制度とその必要性について周知するとともに、生産現場における取組を促進するため、生産者らの取組を支援します。

#### （5）鳥獣被害・耕作放棄地の解消推進

市町、猟友会等の関係機関と連携を図り、鳥獣被害対策について総合的に取り組むことで、耕作放棄地の発生を防止するとともに農地の利用を促進します。



日高地方青年農業者会議（プロジェクト発表）



郷土食体験



農トレ！日高 現地研修会



食育教室

## 2 主要農産物の振興方向

### ○ 果樹

梅については、栽培管理マニュアルに基づく安定生産技術の普及推進を図るとともに、「露茜」等の梅干以外の用途に利用される有望品種の導入を推進し、安定した収益を確保できる果実生産の振興に取り組みます。また、梅専作経営のリスクを軽減するため、地域に応じた有望品目について導入を図り複合経営を推進します。さらに、新たに県内で見つかった梅病害虫については管内での蔓延防止を図ります。

温州みかんでは、「ゆら早生」や「YN26」等の優良品種の生産拡大を推進するとともに、改植による園地の若返りを推進します。

「はっさく」や「不知火」等の中晩柑類については、越冬完熟果生産や冷蔵貯蔵技術を活用し、付加価値が高く長期間出荷できる体制づくりを進めます。また、施設栽培向けの有望品種を探索します。



ウメ「露茜」



極早生ウンシュウミカン「YN26」

### ○ 野菜

当地方は、本県でも有数の野菜産地であり、各地域の気候条件に合わせてエンドウ類、ミニトマト、小玉スイカ、キュウリ、ピーマン、ブロッコリー、イチゴなど多くの品目が栽培されています。今後も各地域に適した野菜品目の振興を図るとともに、複合経営を推進することで野菜産地の強化に取り組みます。

施設整備を進めるとともに、省エネルギー化・省力化かつ安定生産につながる環境制御技術の導入により、施設栽培作物の高品質・安定生産体制の構築を目指します。

また、省力的安定生産のための新たな品種を選定し導入により産地強化を進めます。



さらに、総合的病害虫・雑草管理（IPM）の導入を進めることで、生産安定化に取り組めます。



ウスイエンドウ新系統（短節間）の選抜



環境制御技術によるミニトマト栽培

## ○ 花き

当地方では、温暖な海岸部地域にスターチス、宿根カスミソウを主とした全国トップクラスの切り花産地を形成しており、中山間地域には、千両、サカキ等が生産されています。このような立地条件・気象条件等を最大限に活かし、各地域に適した栽培品目を導入・推進するとともに、消費者ニーズに対応した生産出荷を推進します。

施設花きでは、低温管理下での安定生産技術や施設園芸の省エネルギー化の推進に取り組めます。また、スターチスの県育成品種や新育苗技術の導入による生産コストの低減、難防除病害虫対策や施設整備を推進し、農業経営の安定化を図ります。

さらに、生産者団体等による「母の日参り」等花き消費拡大活動、花育の取り組みを支援します。



スターチス



カスミソウ



千両



ガーベラ

### 3 市町別振興方向

#### ○ 御坊市

- ・「花のまち御坊」のPRや消費拡大に対する取組を支援します。
- ・花きの高品質生産を推進するとともに、農産物の高品質安定出荷を支援します。
- ・施設園芸の省エネルギー化や低温管理および地球温暖化に対応する安定生産技術の導入を推進するとともに、オリジナル品種の導入等による生産コストの低減に取り組み、農業経営の安定化を図ります。
- ・地域農業の担い手となる若手農業者を対象とした営農相談、技術指導を行い、後継者育成に取り組みます。
- ・農地中間管理事業等を活用して農地の利用権設定を促し、担い手への農地の集積・集約化を進めます。併せて、遊休農地の発生防止と解消にも努めます。



施設園芸団地



オリジナル品種の導入

#### ○ 美浜町

- ・キュウリ、ネギを中心とした野菜の高品質生産と周年出荷体制の確立に取り組むとともに、農家の経営の安定化に努めます。
- ・町のシンボル“煙樹ヶ浜の松林”の保全活動と連携し、松葉堆肥を活用した環境保全型農業の推進、ブランド化を支援します。
- ・エコファーマーの育成、推進を図ります。



特産品“キュウリ”のブランド



未利用有機物（松葉）の活用



## ○ 日高町

- ・ミニトマトの産地強化と、重点品目であるキュウリ、ウスイエンドウ、ブロッコリーの生産量確保に努めます。
- ・エコファーマー、地域農業の担い手等の育成・推進を図ります。
- ・農業者の高齢化や担い手不足に対応したＪＡ紀州農援隊等への水田農業への取組を支援します。



エコファーマーコーナー



ＪＡの作業受託組織「農援隊」

## ○ 由良町

- ・ゆら早生の生産拡大とマルチ敷設の推進による「味一ゆら」の増産をめざします。
- ・混植や老木樹の計画的な改植に努めます。
- ・極早生温州の新品種「ＹＮ２６」栽培推進に取り組みます。
- ・「さつきはっさく」「木成りはっさく」の生産拡大を図り、ゆらブランドの確立に努めます。
- ・ニンニクの栽培推進による作付面積の維持を図ります。
- ・ヒサカキ（ビシャコ）の安定出荷に取り組みます。
- ・「ゆらっ子農業塾」を中心に地域農業の後継者育成を支援します。
- ・由良町鳥獣害防止対策協議会を中心に鳥獣被害の防止対策に取り組みます。



ゆら早生のマルチ栽培



ニンニク

## ○印南町

- ・ JA や生産部会、県試験場との連携のもと、施設栽培の省エネルギー化・省力化につながる生産技術や品種の導入を推進し、農業経営の安定化を図ります。
- ・ ミニトマトの「赤糖房」、「優糖星」、「王糖姫」といった良食味の個性化商品の生産、産地のブランド化を支援します。
- ・ 土づくり、化学農薬及び化学肥料の低減等環境に配慮した農産物づくりを推進し、エコファーマーの育成を図ります。
- ・ 印南町鳥獣害対策協議会を中心に、地域住民が一体となった鳥獣被害対策に積極的に取り組めるよう支援します。
- ・ 地域農業の担い手となる各団体の活動支援を行うとともに、新規就農者への経営相談、技術支援を行います。



ブランドトマトの先駆け「赤糖房」



地域農業振興座談会(地区懇談会)

## ○ みなべ町

- ・ JA 梅部会やみなべ梅対策協議会と連携し、優良授粉品種の導入や新梢の摘心処理、難防除病害虫対策、せん定・土づくり・かん水・草生栽培・適正施肥などの基本管理等、栽培管理マニュアルに基づく安定生産技術の普及を推進します。
- ・ JA、町、県うめ研究所と連携し、梅の新品種や省力栽培など安定生産や収益性向上のための新技術について、調査研究及び普及に取り組めます。
- ・ 町農業振興協議会と連携し、女性農業者の活動や次世代の担い手育成を支援します。
- ・ 梅農家の複合経営品目として、野菜・花きの栽培や梅酒・梅シロップ等の加工品に適した新品種の栽培を推進し、経営安定を図ります。
- ・ 世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」のアクションプログラムを推進することにより、梅の生産振興と販路拡大、“梅のまち みなべ町”の歴史や文化の継承、生物多様性・景観の保全、都市農村交流、梅の機能性PR等を進めます。





栽培管理講習会



梅酒・梅シロップに適した「露茜」

## ○ 日高川町

- ・「ゆら早生」や「YN26」等の優良品種の生産拡大を進めます。
- ・「不知火」の貯蔵技術向上を図り、長期出荷体制づくりを進めます。
- ・ウスイエンドウ、ブロッコリー等特産野菜の維持に努めます。
- ・ミニトマトの生産拡大と高品質低コスト栽培を進めます。
- ・中津地区、美山地区では山間地の気象条件を活かした千両、ササユリ等特産作物の栽培を推進します。
- ・イタドリの栽培と特産品づくりを推進します。
- ・鳥獣害対策の推進と獣肉の有効活用に向けた取り組みの推進を図ります。
- ・U・I・Jターンの農業者への支援を通し地域農業の後継者育成を推進します。



YN26



ササユリ



不知火



ICT捕獲ワナ